

彼の音楽を彼が弾く—

館野泉 バースデー・コンサート

2022

IZUMI TATENENO
BIRTHDAY CONCERT

～またひとつ夢を叶える日～

Program

セヴラック(光永浩一郎編):

組曲 大地の歌 ～七つの農事詩

序奏(大地の魂)、耕作、種蒔き、間奏曲(夜のおとぎ話)

雹、刈り入れ時、終曲(婚礼の日)

Déodat de Séverac (arr.Koichiro Mitsunaga for Left hand):

Le Chant de la Terre

平野一郎:

鬼の学校 左手のピアノと弦楽の為の教育的五重奏

基礎科目、教養科目、実践科目、生存科目、

運動、給食、転寝、掃除、放課後の鬼生訓 etc

(委嘱作・初演・「館野泉左手の文庫」助成作品)

Ichiro HIRANO:

WONI NO GAKKÔ[GOBLIN SCHOOL]

Educational Quintet for Lefthand Piano & Strings

(Dedicated to Izumi Tateno)

共演*: ヤンネ館野(ヴァイオリン) Janne Tateno, Vn

安達真理(ヴィオラ) Mari Adachi, Vla

矢口里菜子(チェロ) Rinako Yaguchi, Vc

長谷川順子(コントラバス) Junko Hasegawa, Cb

※酒吞堂子先生の教えを受ける鬼の生徒たち

2022 11.29 火 [18:00開場]
19:00開演

愛知県芸術劇場コンサートホール

「セヴラック生誕150年に当たる今年、
何としても彼の作品を
自分の手で弾きたかった。」(館野泉)

©Akira Muto

S席 6,000円 / A席 4,000円(全席指定・税込) 一般販売:9月2日(金)

主催 | テレビ愛知 / クラシック名古屋 協賛 | **ダイドー**株式会社

お問合せ | テレビ愛知事業部 052-229-6030 (月～金 10時～17時 但し祝日は除く)

クラシック名古屋 052-678-5310 (月～金 11時～16時 但し祝日は除く)

※未就学児の入場はご遠慮ください。

※やむを得ぬ事情により出演者、曲目等変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

※車椅子でご来場されるお客様はご購入前に必ずクラシック名古屋までお問合せください。

※会場内ではマスクの着用必須。入場時の検温(37.5度以上入場不可)、消毒など感染症対策にご協力をお願いします。

※発熱や体調不良の場合はご来場をお控えください。

アイチケット 0570-00-5310 [アイチケットWEB](https://t.pia.jp/) [検索](https://l-tike.com/)

プレイガイド

チケットぴあ <https://t.pia.jp/> [Pコード:225-173]

ローソンチケット https://l-tike.com [Lコード:41526]

イープラス <https://eplus.jp>

名鉄ホールチケットセンター 052-561-7755

芸文プレイガイド 052-972-0430

栄プレチケ92 052-953-0777

『大地の歌』と『鬼の学校』

南仏の作曲家セヴラックの名を知ったのは19歳の時だったが、ドビュッシーやラヴェルと同時代の彼のことを当時日本で知っている人は殆どいなかった。「セヴラックの音楽はとても素敵なお香りがする」とはドビュッシーの言葉だが、作曲家自身は「田舎の音楽家デオダ・ド・セヴラック」と自ら好んで名乗っていたという。東京藝大1年生の時、安川加寿子先生のレッスンにセヴラックの『ラングドック地方にて』を持って行き、「あなた、どうしてセヴラックなんか知っているの!」と驚かれたことが懐かしい。

『大地の歌』の副題にある“七つの農事詩”とは古代ギリシャの詩。全7曲の『大地の歌』には若い作曲者の夢や憧れと優しさが瑞々しく表現されていて素晴らしい。本年のセヴラック生誕150年に合わせてどうしても左手で演奏したく、光永浩一郎に編曲を委嘱したのが一昨年のことだった。夢がひとつ叶えられた。

平野一郎に昨年委嘱した第4作はピアノ・ソロのための『鬼の生活』だった。これは日本とフィンランドの各地でこれまでに5回演奏し、素晴らしい作品だと絶賛を博している。今回はその続編で『鬼の学校』。シューベルトの『鱒』と同じ編成で、ピアノを弾く酒呑童子が若い眷属を集めて、鬼が鬼らしく純粋に生きていくために必要なことを囁んで含んで言い聞かせる趣向。老いた酒呑童子と若い仲間達が繰り広げる音楽を通しての命の会話に耳を傾けて頂きたい。

館野 泉

館野 泉 Izumi Tateno : Piano

クラシック界のレジェンド。今年満86歳を迎える。領域に捉われず、分野にこだわらず、常に新鮮な視点で演奏芸術の可能性を広げ不動の地位を築く。2002年に脳溢血で倒れ右半身不随となるも、しなやかにその運命を受けとめ、「左手のピアニスト」として活動を再開。「館野泉の左手のために」、10ヶ国の作曲家により100をこえる作品が献呈される。もはや「左手」のこだわりなど必要ない、身体を超える境地に至った「真の巨匠」の風格は、揺るぎない信念とひたむきな姿がもたらす、最大の魅力である。

【館野 泉公式HP】<https://www.izumi-tateno.com/>

ヤンネ館野 Janne Tateno : Violin

フィンランド・ヘルシンキ生まれ。シルッカ・クーラ、オルガ・バルホメンコ、森悠子の各氏に師事。11年、22年東京文化会館にてリサイタルを行う。ソリストとして15年ヘルシンキにてW.ケンブのヴァイオリンコンチェルトを演奏、またモーツァルトコンチェルト、シベリウスコンチェルトを山形交響楽団と共演。現在ヘルシンキを拠点とするラ・テンペスタ室内管弦楽団のコンサートマスター、音楽監督を務める他、山形交響楽団第2ヴァイオリン首席奏者、森悠子主宰長岡京室内アンサンブルのメンバーとしても活動する他、パロックヴァイオリン演奏、アルゼンチンタンゴ演奏、コンサートのプロデュースをするなど幅広い活動を展開。

【ヤンネ館野公式HP】<https://jannetateno.com>

MESSAGE

どんな『鬼の学校』に行かされるのか?期待と不安を感じている生徒のような気分です。これまで平野作品には何度か挑戦しています。父や共演者の皆さんと共に新しい音楽を誕生させることは大きな喜びです。



矢口里菜子 Rinako Yaguchi : Cello

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、同大学を経て、ドレスデン音楽大学にて研鑽を積む。第10回ビバホールチェロコンクール第1位。第31回霧島国際音楽祭賞。ソリストとしてザクセン州立警察オーケストラなどと共演。現在山形交響楽団首席チェロ奏者。異なる楽団のトッププレイヤーから成る弦楽四重奏団「The 4 Players Tokyo」として、BSテレビ東京「エンター・ザ・ミュージック」に定期的に出演している。



MESSAGE

館野先生とは昨年、山形で初共演させていただきました。ピアノの音を超えた、壮大な宇宙を見たような感覚は忘れられません。再び共演させていただけることが心から嬉しく、待ち遠しいです。今回の平野一郎氏の『鬼の生活』では、館野先生の作り出される世界で、若き「鬼」の一匹としてどう生きることになるか、楽しみです。先生、お誕生日おめでとうございます!

安達真理 Mari Adachi : Viola

日本フィルハーモニー交響楽団ヴァイオリン客演首席奏者。精力的にヴァイオリン・リサイタルを開催するなど、ソリスト、室内楽奏者としても幅広く活動している。録音作品では『Winterreise』J.S.バッハ 組曲&パルティータ『MY DEAR』をリリースしている。これまでに、インスブルック交響楽団にて副首席奏者を務め、パーヴォ・ヤルヴィ氏率いるエストニア・フェスティバル管弦楽団にも参加している。



MESSAGE

館野先生、お誕生日おめでとうございます!お会いする度に、先生のお優しさ、ユーモア、可愛らしさに触れて、幸せな気持ちにさせていただいております。そして、先生から生み出されるパワフルな音楽にいつも圧倒されます。これからもご一緒させていただけるのを楽しみにしております!

長谷川順子 Junko Hasegawa : Contrabass

相愛大学卒業。同研究科修了。アメリカルーズヴェルト大学シカゴ芸術学院に留学。フィンランドの室内管弦楽団ラ・テンペスタのメンバーとして、2005、2007年オウルンサロ音楽祭、2005年日本ツアーに参加。長岡京室内アンサンブル、関西室内楽協会大阪チンバーオーケストラ、いずみシンフォニエッタ大阪、神戸市室内管弦楽団、他、オーケストラリベラクラシカ、バッハ・コレギウム・ジャパンに参加。また、古楽から現代音楽、タンゴなど様々な活動を広げている。



MESSAGE

館野泉さんのピアノの響きは、聴くもの全てをその振動で包み込み、心の中の世界を広げてくれます。お誕生日おめでとうございます。